



学校だより

雪小っ子

NO. 14

西海市立雪浦小学校

校長 浅田 眞理

平成28年 6月 10日 発行

子供たちの表現活動が長崎新聞に！

先日、長崎新聞特派員の小槻氏が学校を訪ねられ、子供たちの表現活動の取組に関する取材を受けました。いろいろと話をしていますと、地域の方からの情報が入り、それに深く興味をもたれたとのこと。学校としましては、自分たちからの取材の申し出はするものの、今回のような地域の方からの情報で取材を受けることは初めてであり、大変嬉しく感じました。

取材の結果は、右に掲載していますように、本日6月10日（金）の石だたみのコーナーに取り上げていただきました。現在掲示されている子供たちの作品は、「ゴールデンウィーク」「雪浦ウィーク」をお題に、全校児童34名が思い思いに作った俳句・川柳の作品です。すでに作成から1か月以上経過していますので、そろそろ次の作品に変えようと先週から準備を進行中です。ちなみに、自作のお題は『梅雨』ですが、少しずつ子供たちの作品が出来上がってきています。校内にも掲示予定ですが、是非バス停付近のフェンスでお楽しみください。



と川柳を学校のフェンスに張り出し＝写真＝、地域住民に披露している。

石だたみ



西海市大瀬戸町の市立雪浦小は、34人の全児童が書いた俳句

○：同校は児童の言語力や表現力を高めようと、昨年度から四季の変化などを「五・七・五」で表す取り組みを開始。地域住民から読み取りたいとの要望があり、本年度からフェンスに張り出した。

○：ゴールデンウィークにあつた地域イベント「雪浦ウィーク」で演奏された南米の民族楽器ケーナを題材に「春の風 街に広がるケーナの音」とさわやかな印象の作品も。学校の近くに住む指方子さん(87)は「子どもたちの感性にはびつくり。次の作品も早く読みたい」。 (小槻憲吾)

※ 右の写真は取材に来られた時、地域の方2名が嬉しそうに作品を眺めておられたそうで、その光景のすばらしさにシャッターを押されたとのことでした。

雪浦っ子の心を見つめる教育週間（6／13～6／17）

一昨年7月28日、突然飛び込んできた『高1女子生徒による同級生殺害事件』のニュース。誰もが自分の耳を疑い、大きな驚きと同時に、複雑な思いを抱いたことと思います。日々伝えられる凄惨（せいさん）な犯行状況には、言葉を失うほかありませんでした。

私たちの住む長崎で、子どもが子どもの命を奪う悲しい事件が立て続けに起きて13年。2003年7月の長崎市：中1少年による幼児誘拐殺人事件、翌年6月に起きた佐世保市：小6女児同級生殺害事件を受け、私たち大人は、子供たちを二度と被害者・加害者にしないための努力を続けてきました。学校現場においては、「長崎っ子の心を見つめる教育週間」を位置付け、子供たちの心と向き合い、真剣に生命の重さ・尊さ・大切さを懸命に説き、その胸の内を見つめようと努めてきました。それなのに、上記一昨年の青少年による殺害事件の発生。事件直後は次に出る言葉が見つからなかったのですが、真相が明白になって行くにつれ、これまでを見つめ直し、改めて心の教育のあり方を考えていきたいと決意を新たにしたところでした。

昨年度も今年度も、より一層子供たちの心に響く・届く指導の充実に力を注いでいきたいと考え、実践化を図っている本校です。子供たちを更に深く理解し、喜びも悲しみも共有し、真正面からぶつかって、真の意味での教育に邁進していく教職員集団です。頑張ります。

つきましては、5月24日付けで学校公開のお知らせを配布したところですが、来週月曜日から1週間「雪浦っ子の心を見つめる教育週間」と位置付け、本校の重点目標である『心の教育の充実』に力を入れて取り組みます。いつでも参観することは可能ですので、お出かけいただき、子供たちの心の教育に触れていただきたいと思います。よろしくお願い致します。

なお、教育週間のスタートに際し、14日（火）の朝8：10～8：25、全校朝会を開き、校長講話で命について子供たちに語りかける予定です。